

# RV042、RV042G、およびRV082 VPNルータでのSmart Link Backup ( フェールオーバー ) の設定

## 目的

Smart Link Backupは、1つ目のWANに障害が発生した場合に2つ目のWANをセットアップできる機能です。この機能は、WANとデバイス間の通信が常に継続的であることを保証するために使用されます。

このドキュメントの目的は、RV042、RV042G、およびRV082 VPNルータでSmart Link Backupを設定する方法を示すことです。

## 適用可能なデバイス

- ・ RV042
- ・ RV042G
- ・ RV082

## [Software Version]

- ・ v4.2.2.08

## デュアルWANの設定

ステップ 1 : Router Configuration Utilityにログインし、System Management > Dual WANの順に選択します。Dual WANページが開きます。



**Dual WAN**

**Load Balance**

Smart Link Backup : Primary WAN **WAN1** ▼ ( Specify which WAN is Primary , the other one will be backup )
   
 Load Balance (Auto Mode)

---

**Interface Setting**

Interface	Mode	Configuration
WAN1	Smart Link Backup	
WAN2	Smart Link Backup	

ステップ 2 : Smart Link Backupオプションボタンをクリックして、スマートリンクバックアップモードを有効にし、継続的な接続を確保します。次に、Primary WANDロップダウンリストから、プライマリWANとして設定するWANを選択します。プライマリWAN接続が使用できない場合は、バックアップWAN接続が使用されます。

ステップ 3 : Saveをクリックして変更を保存するか、Cancelをクリックして変更を取り消します。

## WANインターフェイスの編集



**Dual WAN**

**Load Balance**

Smart Link Backup : Primary WAN **WAN1** ▼ ( Specify which WAN is Primary , the other one will be backup )
   
 Load Balance (Auto Mode)

---

**Interface Setting**

Interface	Mode	Configuration
WAN1	Auto	
WAN2	Auto	

ステップ 1 : Interface Settingテーブルで目的のWANインターフェイスのEditアイコンをクリックして、デュアルWANに使用するWANの設定を編集します。Dual WANページに新しい情報が表示されます。

**Network Service Detection**

**Enable Network Service Detection**

Retry count :

Retry timeout :  second

When Fail :  ▼

Default Gateway

ISP Host

Remote Host

DNS Lookup Host

ステップ 2 : Network Service Detection領域までスクロールします。

ステップ 3 : Enable Network Service Detectionチェックボックスにチェックマークを入れます。ネットワークサービスの検出により、デバイスはWAN接続が失敗した時点を確認できます。

ステップ 4 : Retry Countフィールドに、デバイスが接続をpingして接続のステータスを判別する必要がある回数を入力します。

ステップ 5 : Retry Time Outフィールドに、デバイスがpingの間に待機する時間 ( 秒 ) を入力します。

### Network Service Detection

Enable Network Service Detection

Retry count :

Retry timeout :  second

When Fail : Keep System Log and Remove the Connection ▼

Default Gateway

ISP Host

Remote Host

DNS Lookup Host

手順 6 : Keep System Logを選択し、When Failドロップダウンリストからこの接続を削除します。このアクションにより、最初のWANに障害が発生したときにセカンダリWANが使用されることが保証されます。

Default Gateway

ISP Host

Remote Host

DNS Lookup Host

手順 7 : デュアルWANインターフェイスの接続のテストに使用する各デバイスのチェックボックスをオンにします。

・ デフォルトゲートウェイ : デフォルトゲートウェイは、デバイスとネットワークとの接続をテストするために使用されます。ネットワークサービス検出は、デフォルトゲートウェイにpingを実行して設定をテストします。

- ・ ISPホスト：ISPホストは、ISPホストの特定のIPアドレスにpingを実行して接続を確認するために使用されます。このオプションをチェックする場合は、ISP Hostフィールドに特定のホストのIPアドレスを入力します。

- ・ リモートホスト：リモートホストのIPアドレスは、リモートホストのIPアドレスにpingを実行するための接続をテストするために使用されます。このオプションをオンにした場合は、リモートホストのIPアドレスを入力します。

- ・ DNSルックアップホスト：DNSルックアップホストは、ホストのIPアドレスにDNSルックアップサーバのpingを実行して接続をテストするために使用されます。このオプションをチェックする場合は、DNSルックアップホストのIPアドレスをDNS Lookup Hostフィールドに入力します。

ステップ 8：Saveをクリックして、設定を保存します。

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。